

TYPE OF INDUSTRY



門家機能の拡大と進化がテーマで、中小企業診断士などの専門家、支援機関、経営者がスクラムを組み、経営と事業の革新に挑む。

J P B Mは2009年に発足した。最近の活動では地元事業者の「連携支援事業」の一環として、関東圏を中心に「スカイプラント」

心会員事業所と電気通信大学および電通大ロジエクトの実装化をスタートした。

地域の医療機関、高付加価値を目指す老舗菓子製造小売りや、

精密切削加工

日成工業は、精密切削加工を手がける。樹脂と金属の両方の加工を得意とする。社長の野田宜志は「金属の同時5軸加工に取り組み企業は多いが、樹脂ではあまりない。さらに両方の加工が可能なのは武器になる」と話す。事業はもっぱら試作品の加工だが、案件により、3000個程度の量

成長企業チカラの源泉

顧客は大手医療機器メーカーなどで、どこの企業も見積もらないような微細の難加工に挑む。加工する製品の大きさは0.2mm。「シヤーペンの芯の先端くらい。米粒だと当社にとっては大変だ。そこからさらに100分の1の精度で切削加工。超精密微細加工を成功させる秘訣は、「保持や加工

日成工業

の参加など、関係する事業者の業績向上に寄与する事業について提案する。

15日に中央大学駿河台記念館で行う全国統一研修会では、地域医療連携の新たな動向で

樹脂と金属 両方得意



社長 野田 宜志氏

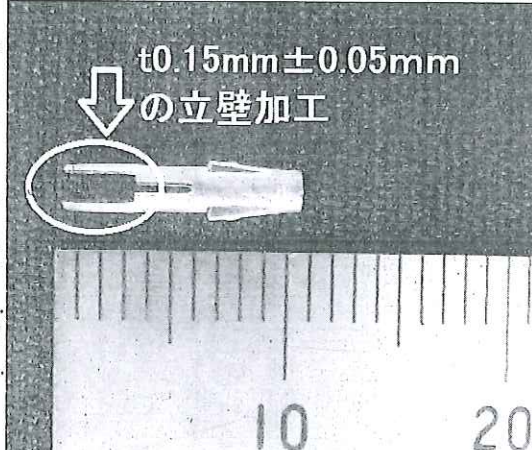
理由を野田は「切削だから」という。「切削は面白い。安価な機械でも頭を使い、削り方を考え、よい検査装置で精度を出せばいろいろな企業に必要とされる」と胸をはる。

自動化 重視

同社の設備は、マシンング5台、平面研削盤1台、測定器二つ、CAD4台だが、他社と違うのは、自動化に取り組んでいる点だ。CAD・CAMを含め自動化のためのソフトやハードの設備に1000万円以上を投資する。3次元計測器も検査工程の自動化のために導入した。「プログラムさえあれば自動で製造できる。人間が寝ている間も機械が動けば利益を生み出せる」と



式（写真）を開催した。式典で16社を新規認定、10社を更新した。これにより、現認定企業は102社と100社の大業。90%以上OEM



t0.15mm ± 0.05mm の立壁加工

いう。もともと証券会社で営業マンだった野田。当時は1時間ごとにノルマが設定されていたという。現在も時間管理を徹底し、利益を生む構造をつくる。現在は10年後を見据え、海外展開を模索する。ターゲットはドイツやスイスだ。「情報を得たり、視察に行ったりする予定だ。欧

肉形状微細加工を切削で実現

【企業プロフィール】
所在地 川崎市中原区宮内2の24の1 社長 野田宜志氏 創業 78年（昭和53） 4月 売上高 非公開（火曜日に掲載）

差別化でファン形成

モノづくり基盤・成長企業

州は機械工具や自動車では優れている。海外の仕事を受け、企業の価値を高めた」とベクトルを定める。

今後徹底した他社との差別化や家族経営、利益重視の経営方針を貫く。「おいしいラーメンがあれば遠くまで食べに行くのと同じで、日成工業でしかできないことを突き詰め、日成工業ファンを増やしたい」と強調した。

（敬称略、横浜・川口拓洋）